

## 報告1 第4次総合計画第3期基本計画における 成果指標の評価について

平成19年度からスタートした第4次酒々井町総合計画第3期基本計画には、着実に目標を達成するため主要な事業72項目に成果指標を設定しましたが、初年度となる平成19年度の評価について報告します。

### 基本計画の進捗状況 57事業 79.2%は順調に推移 ～但し15事業は改善が必要～

#### 成果指標とは

成果指標は、各施策・事業の進捗状況を確認し、達成度を計る目安となるものです。それらを数値で表すことで、町民の皆様にはわかりやすいものとなり、町民と共有することによって行政活動への理解や町政の透明化を促進することを期待するものです。

本年度は、行政評価を本格的に導入するための試行段階として、平成18年度時点における現状値と平成19年度の実績値を比較し、最終年度である平成23年度の目標値に対する進捗状況、今後の課題、改善策を踏まえた方向性を抽出しました。

#### 評価の結果

全体の事務事業の79.2%にあたる57事業は概ね順調に推移しているものの、15事業については、改善に向けての対策が必要となりました。

事務事業によって課題の性質に違いがあるものの、課題解決に向け、今後の施策展開を改善しながら、目標達成に向けて取り組んでいくことが必要と考えています。



#### 公表

この成果指標の評価については、町ホームページにて公表していますので、ご覧ください。

報告2 国史跡本佐倉城跡指定10周年記念事業について

蘇る本佐倉城など

- 記念事業を開催 -



講演会 452名 参加  
史跡ウォーキング 555名 参加

講演会

10月5日(日) プリミエール酒々井での「講演会」では、調査担当者によるこれまでの発掘成果の紹介と、それに対し国立歴史民俗博物館副館長の小野正敏先生から関東近隣の中世城郭の発掘調査例、整備例との比較を通して講評いただくとともに、「蘇る本佐倉城」をテーマにご講演をいただき、町内外から452名の参加をいただきました。



史跡ウォーキング

10月26日(日) 本佐倉城跡を中心に関連史跡を巡る「史跡ウォーキング」については、443名の参加をいただきました。さらに、役員、スタッフを合わせますと町内外より555人の皆様に参加していただき、盛況のうちに終了することができました。

また、朝市まつりとの同時開催や、昨年好評であった「おもてなし酒々井」にも5つの団体や地元の方々の協力があり大変好評をいただいたところです。



参加者の皆様をはじめ、記念事業に協賛いただきました企業、団体や、運営にご協力をいただきました各種団体、「おもてなし」など側面から協力をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

報告3 酒々井町町制施行120周年記念事業の  
取り組みについて

平成21年

町は町制施行120周年を迎えます

～簡素ながらも記念事業を実施～

酒々井町は、明治22年に町制を施行して以来、来年(平成21年)120周年を迎えます。町を取り巻く状況を踏まえ、盛大に記念事業を執り行う状況にはありませんが、節目の年として位置づけ、簡素ながらも記念事業を実施したいと考えています。

町名の由来



昔むかし、印旛沼の近くの村に年老いた父親と孝行息子が住んでいました。親思いの息子は毎日一生懸命働いて父親にお酒を買っていました。ところがある日、どうしてもお酒を買うお金がつかれず、家に帰ろうとしていました。

そのとき、道端の井戸から何ともよい香りが「ぷうん」としてきました。それは、本物のお酒でした。

息子はそれを持ち帰って父親に飲ませると、「これはうまい酒だ。ありがたい、ありがたい。」とたいそう喜びました。



ところがこのお酒は、息子以外の人がかくとただの水になってしまいました。

このお酒の話が広まり、この井戸を「酒の井」と呼び、村もいつしか「酒々井」と呼ばれるようになりました。

## 報告4 新型インフルエンザ対策について

国内

新型インフルエンザ流行で  
受診患者数 最大約2,500万人と推計

新型インフルエンザは、これまでヒトに感染しなかったインフルエンザウイルスがその性質を変え、ヒトからヒトへ感染するようになり発生するもので、過去にもスペインかぜ、アジアかぜなど10年から40年周期で出現し、世界的に大流行を引き起こしてきました。

平成15年11月以降、鳥類に対して強い病原性を持つ高病原性鳥インフルエンザが東南アジアを中心に流行し、現在では、ヨーロッパ、アフリカまで発生地域が拡大しています。

現在、国では、新型インフルエンザ対策行動計画、専門家会議によるガイドラインを策定し、新型インフルエンザに関する情報を、厚生労働省や国立感染症研究所のホームページで、国内外の最新情報等を提供するほか、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、検疫法を改正して、新型インフルエンザが発生した場合の被害を最小限に食い止め、発生前後に必要な対策を迅速かつ確実に実施するための法整備が行われています。

新型インフルエンザが国内で、広く流行した場合、受診患者数は最大約2,500万人に達するものと推計されることから、国では、行動計画に基づき、インフルエンザの治療薬である商品名タミフルやリレンザの備蓄と発生する新型インフルエンザのタイプを予想して作ったプレパンデミックワクチンの備蓄が進められています。また、発生後にはパンデミックワクチンを製造し、ワクチンの摂取により感染した際の発症、重症化の予防に大きな効果を発揮することが期待されています。



もし新型インフルエンザが発生してしまったら

外出は避け、食料品などの備蓄を！

町としても、新型インフルエンザに関する情報を、12月からホームページに掲載して情報提供に努めるほか、来年1月号の広報紙に、インフルエンザの感染予防は、自己予防が基本であることを十分認識して頂くように、手洗いとうがいの励行、人ごみに出る場合のマスクの着用が、高い予防効果のあることを周知するほか、新型インフルエンザが発生した場合感染拡大を防ぐうえで、外出や人の集まる場所を避けること、食料品や日常品の備蓄を勧めることなどの記事を掲載し、情報の収集と提供など住民の安心・安全に努めていきます。

手洗い、うがい、マスクの着用 = 高い予防効果



報告5 心の健康づくりについて

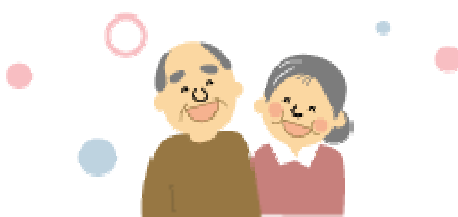
# 心の健康づくりに 取り組みます



介護者の精神的・身体的ケアを目指します

保健センターにエレベーター設置 ← バリアフリー化

- 施設を改修し活用の拡大を図る -



健康づくりでは、有識者座談会でご意見をいただきました「心と身体の健康づくり」に取り組んでまいります。

心の健康づくりは、介護者の精神的、身体的ケアを目指し、保健センターにエレベーターを設置し、バリアフリー化を図るなど改修を行い活用の拡大を図ることにより、老々介護など介護者を支援する「交流の場」、保健師や栄養士による相談など、保健センターを会場に開催していきます。

## お知らせ

### 在宅介護者の交流会（平成21年4月～）

介護をされている方の心のケアを中心に交流会を開催します。悩みを一人で抱え込まずに、同じ立場の方と語り合い、少しでも介護の負担を軽減し、あなたの笑顔で介護をされている方に元気を分けてあげましょう。

日時 年4回開催 午後1時30分～2時30分

場所 保健センター

対象 高齢者を介護している方

参加費 無料

（申し込み・問い合わせ）

酒々井町地域包括支援センター

TEL 481-6393



## 報告6 酒々井南部地区開発に関する勉強会の開催について

### 南部 開発

UR、オリックス不動産(株)など  
関係者と意見交換



酒々井南部地区開発に関する勉強会が、土地区画整理事業の事業主体である都市再生機構をはじめとして、千葉県、オリックス不動産(株)のほか、関係者が参加し都市再生機構千葉地域支社において開催されました。



### 勉強会を実施

**地域のポテンシャルなどを踏まえ意見や情報の交換を行いました**

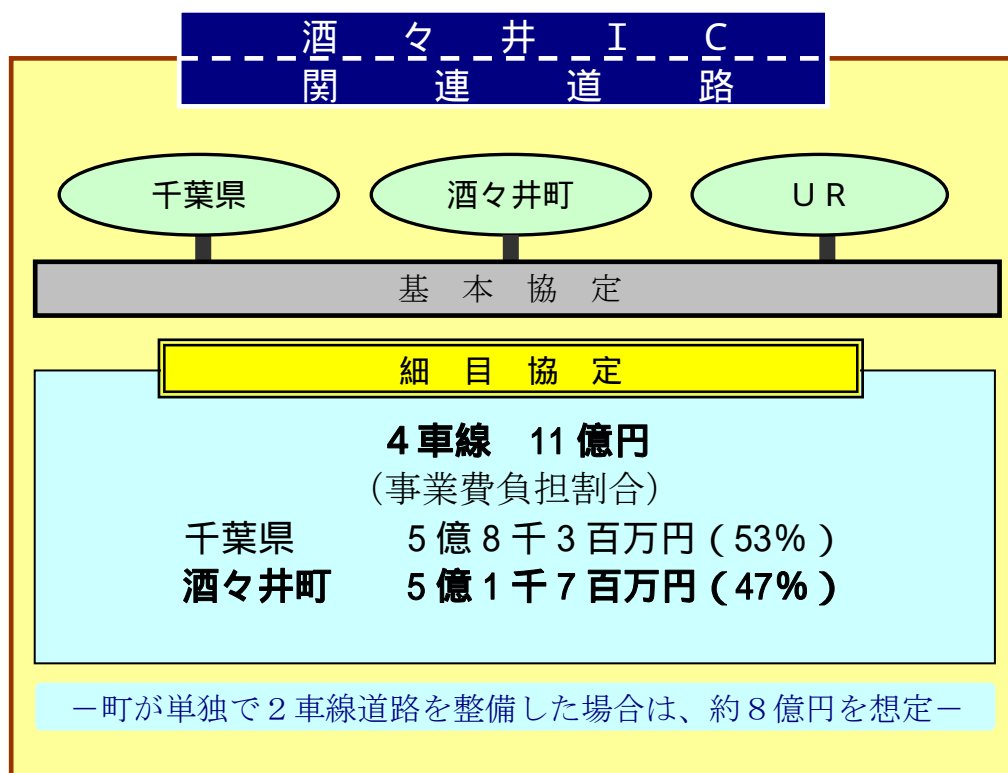
第1回目は、観光立国を支える東アジア諸国のニーズをテーマとして、10月10日に行われ、第2回目は、地球環境時代における最近の潮流をテーマとして、10月24日に行われました。なお、第3回目は、酒々井南部地区の具体化に向けてをテーマとして、11月7日に開催されました。

内容は、酒々井南部地区の効果が広く地域に行き届くために、考えられる機能などについて、多角的に検討していくため、商業施設のみならず、成田国際空港、酒々井IC近接という立地条件を最大限に生かした機能導入のあり方について、地域のポテンシャル、立地条件や千葉県の政策等も踏まえ、観光、環境等を切り口に、ニーズ調査や県の取り組み事例の紹介等を交えながら、意見や情報の交換を行いました。

## 報告7 (仮称)酒々井インターチェンジ及び 関連道路整備に関する細目協定について

(仮称)酒々井インターチェンジ及び関連道路の整備に関する細目協定については、平成17年11月21日に千葉県、酒々井町、URの三者で締結した基本協定に基づき、千葉県と昨年来から協議を重ねて参りましたが、事業費に対する負担割合の調整が整いました。

### 細目協定➤負担割合の調整



#### 細目協定の主な内容

事業区域については基本協定の範囲、また、事業内容は調査、用地補償、本工事一式、協定の期間は基本協定締結の日から事業が完了する日まで、事業の所要額、4車線11億円、事業費の負担割合については、千葉県が53%（5億8千3百万円）、酒々井町が47%（5億1千7百万円）となっています。

なお、町が単独で2車線道路を整備した場合、約8億円を想定しています。

また、事業の施工は町施工とし、その工事費の支出については、年度ごとの契約として行うものです。

## 報告8 中川流域防災事業における京成電鉄(株)との協議について

中川流域  
防災事業京成橋梁の拡幅には  
約14億円の事業費が必要

中川流域防災事業における京成電鉄(株)との協議経過について報告します。  
京成橋梁の拡幅にあたりましては、下流からの河川改修が不可欠となるため事業費や事業期間を勘案し、中長期的対策として位置づけているところですが、その概算事業費の把握のため10月2日に京成電鉄(株)本社へ伺い、治水事業の再度の説明と併せ概算事業費の算出を依頼し、今般回答をいただきました。

その内容は、橋梁架替のための付帯工事を含めた京成電鉄(株)側が受託する工事費として12億円程度要すること、拡幅に係る詳細設計費、工事費等の費用は全額原因者である当町の負担となること、施工環境上の問題点や近隣地域への影響についての回答がありました。

よって京成橋梁拡幅に係る総事業費としては、当該事業費に町が実施する町道橋2橋の架替え工事費、家屋移転補償費等の約2億円を加え、総額14億円程度の事業費が必要となる結果を得ていますのでご報告します。

費用対効果などを勘案し

調節池が優れているものと判断

京成橋梁拡幅 14億円

調節池 5億円

したがって、中川流域防災事業の実施につきましては、これまでの被害状況や中川流域の特性を十分考慮した上で、費用対効果、工事実施に必要な期間等から早急に最大の治水効果を生む整備手法として、調節池を設置し下流の現況河道の洪水流量を低減させることが効率性、投資効果とも最も優れていると判断しているところです。

なお中川の治水対策については、過去3度の請願書が提出されていることを踏まえ、残存する水害リスクを一日も早く軽減すべきであることから、今議会に補正予算として、調節池の建設に係る用地購入費の一部を計上しました。



中川治水対策事業については、広報ニューすい11月号・12月号に特集記事を掲載しましたのでご覧ください。

なお、調節池の用地購入費等については、本議会の予算審議において、補正予算の計上は同意を得られませんでした。